

# 国 語 科

## I 古典教材の検討とその指導

——特に古典1乙の場合——

鈴 木 洋 一 郎

(要旨) 国語教育における教材の意義と特徴とを考え、現代文と相違する古典(古文)教材を48年度の検定教科書から選び、その採択頻度数を中心に教材の傾向、望ましい入門教材を調査し、さらに新教材の発掘を徒然草に期待しようとした。

### ま え が き

#### 一. 国語教育と教材

国語教育における教科書(教材の一つ)の占める位置は大きい。学習指導要領の目標や内容を盛りこみ、学習活動を十分に果たしうるようにまとめられた教材の一つである教科書は、従来「教師の教材」として指導の手がかりまたは媒介として使用されたものから、生徒が自発的に学習のできるように工夫されている。教師指導者からは生徒の学習活動への適切な助言者としての位置をかえるにいたったと言っている。現代文において「学習の手引き」の項目に生徒の学習を促すような課題を多く設け、古文・漢文などで、頭注・脚注だけで学習が十分できるようにしているのは教科書の方向を示しているといつてよい。勿論、教科書の教材だけで国語学習は不十分なので、補助教材をプリントし、テキストを採用し、また良書を指定して読書指導をし、録音テープやVTRやOHPなどの視聴覚教材を利用してゆかなければならない。

#### 二 国語教材の特徴と問題点

国語教材中で特に多い現代文の読解教材を展望してみると、次の2点が注目される。以下現行の「現代国語」1年を中心として、教科書出版の18社のものについて調査した結果について挙げてみると、まず

#### 1. 教材は非常に多く広い範囲にわたり、多種多様である。

学習指導要領の「内容」の指導事項に分類された様式別に採択頻度数の多いものを挙げてみると、次の表のようになる。

(注) 2回採択された作品 30編

#### 1. 記録・報告(7編)

梅棹の「私の読書法」 小林の「私の人生観」  
庄野の「ガンビヤ滞在記」 野村の「人間シュ

	計	3回以上採択	2回(注)	3回以上採択作品
記録・報告	60編	1	7	アユの話
説 明	94	0	8	
詩歌・俳句	45	3	3	歌人20, 俳人16人, 富士山, 落葉, 千曲川
随 筆	40	1	3	大和路, 信濃路
小 説	47	4	6	鼻・伊豆の踊り子・ 三四郎・高瀬舟
戯 曲	8	1	2	夕鶴
計	294	10	31	

ヴァイツェル」 福沢の「福翁自伝」 フェーブルの「昆虫記」 堀田の「インドで考えたこと」

#### 2. 説 明(8編)

会津の「唐招提寺の円柱」 岸田の「戯曲」  
木俣の「短歌鑑賞」 島崎の「心で見える世界」  
白石の「自分で考えること」 ネールの「父が子に語る世界史」 中野の「文学の常識」  
村野の「詩の効用について」

#### 3. 詩 歌(3編) 短歌, 俳句は略

高村の「道程」 三好の「乳母車」  
村野の「鉄棒」

#### 4. 随 筆(3編)

幸田の「水」 寅彦の「頭の使い方」「案内者」

#### 5. 小 説(6編)

井上の「あすなろ」 阿川の「すずきとおこぜ」  
直哉の「城の崎にて」 太宰の「走れメロス」  
鷗外の「最後の一句」 三島の「潮騒」

#### 6. 戯 曲(2編)

「おふくろ」 沙翁のもの

現代国語の教材294編中、41編は2回以上の頻度で

あるが、その他は1回限り、これを見ても「現代国語」の教材は古典に比べて広い範囲にわたり多様多岐であることがわかる。

## 2. 教材の学年配置の基準設定が困難である

教材の内容を規定している指導要領では、特に教材の学年別の配慮をしていないし、教科書の作品も編集者の方針により異なり、教師の教材観により指導法を考えていかなければならない。もとより学習対象の生徒によりそれぞれ指導の異同はあるが、同じ作品で中学にも高校にも掲載されてあるものとしては、例えば独歩の「春の鳥」 太宰の「走れメロス」 光太郎の「道程」 藤村の「千曲川旅情の歌」 梅樺の「私の読書法」 貞祐の「幸福の意義」などである。

この教材の多様性と基準性とは、他教科の教材と大いに異なるところであって、これが生徒の学習法を困難ならしめている所以の一つであり、小学校の教材と違い、中・高校においては既成の作品を使用するために、この二つの特徴を克服することはむずかしい。教材の採択にあたっては、

1. 十分に価値ある文章作品として認められているか。
2. 学習者に訴えるものをもっているか。
3. 学習者の能力に適合しているか。

などについても考慮する必要があるし、また「試案」の形でも学年別の国語能力表（能力の目ざすところ）とか語彙表などが提示され、それに基づく教材の検討がなされなければならない。最近、教材の研究には、まず生徒の立場にたつて、主体的に生徒の学習を促進するように工夫され、また教材は学習活動の一つの媒介であり、指導計画もそれに従ってなされるべきという考えが台頭している。従来、教師は作品・文章の代弁者として生徒にわかり易く伝えるものであるとか、作品の史的研究や文章文学研究に終始するという一方的な講義方式の注釈指導は大いに反省させられなければならぬ。

## 三、昨年までの研究経過

国語教材の中の古典「漢文」について生徒の意識の実態を調査し、新教材（特に漢詩について）の発掘を目標して検討しその結果を発表した（紀要17集）。本年は昨年の研究の結果を反省しながら、漢文を除いた古典教材（特に中学高校にわたる古典入門教材）の検討を通し問題点を考えてみることにした。

## 本 論

### 一、古典教育と教材

「古文」から「古典」へと科目名が改められた昭和36年の学習指導要領施行以来、従来の「古文」一内容

面より文章の形式面に着目していた「古文」学習からさらに文化財として有する意義と価値とに重点をおき、言語文化の享受と創造する作品が求められ、古典の果たす人間形成への役割が特に強調されてきた。従って「古典」の語義を考えても、作品（教材）のもつ意義は大きい。即ち古典教育は精選された教材を理解させ、親しむ態度を養うが目標であり、それが望ましいと「要領」の内容の取り扱い、イの部分で述べている。しかし古典教材は、後述の調査の結果でもわかるように、新教材の発掘の余地がないように固定され、学年配置ができており、この点「現代国語」と対照的な違いを見せている。「精選された作品」についてはその具体的な名は示されていないが、嘗て昭和31年の「要領」改訂の際、次のような作品が委員から書き添えられているは一応の参考になると思う。

#### ア 和歌、俳句類

記紀歌謡 万葉の長歌・短歌 古今、新古今、山家集 金槐集 芭蕉 蕪村 一茶

#### イ 物語

竹取 源氏物語 大鏡 平家物語 世間胸算用

#### ウ 随筆（含日記）評論

土佐日記 枕草子 更級日記 徒然草 奥の細道 花伝書 三冊子 去来抄 源氏物語玉の小櫛

#### エ 戯曲

謡曲 狂言 近松の浄瑠璃

従来挙げられていた作品で、脱落したものは、

アについては 梁塵秘抄

イ “ 古事記 伊勢物語 今昔物語 宇治拾遺 古今著聞 増鏡 保元物語 平治物語

## 二、学習指導要領における古典教材の取りあげ方

新学習指導要領において古典教材をどのように取りあげているかを、中学、高校に分けて考えてみると、

### ○中学の場合

従来は学年毎に教材構成ができていて

1年……古典をわかりやすく書きかえた文章

2年……古典に関心をもたせるように書いた文章、格言、故事や成語、短くてやさしい文語文など

3年……現代語訳や注釈などをつけたり、書き下したりして理解しやすくした古典など

のような学年の指定があった。それが新「要領」においては、学年毎の項目をなくし、一括して述べられているし「……基本的古典を用いるようにし、その、際原文をよく理解させるため……」と「原文」という語が新しく出されていて、

1年のときから「原文」教材の出ることも予想され

る。また「めあて」の項目でも従来の「……古典に関心をもたせるように……」とあったのに対して、新「要領」では「古典に対する関心を深め、古典として価値のある古文と漢文を理解する基礎を養うようにすること」となっている。

古典教育は教師の説明によって理解させるのではなく原文のもつリズムや語調を直接読み感ずることにより古典への関心を深めさせようとするのであり、昭和33年以来、「内容をくみとり祖先の思考や心情をうかがい知る……」という内容理解第一から原文理解へと「古典」の強化が目立っているといえる。しかし言語抵抗の多い作品なので訓詁注釈的指導が中心とならないように考慮し、内容面の理解へと深化してゆく指導法が考えられなければならない

物語として……源氏物語 平家物語 宇治拾遺

詩歌として……万葉 古今集 新古今 俳諧

随筆・狂言として……枕草子 徒然草 狂言

漢文として……論語、唐詩

などは、中学生として触れさせたい「価値のある」教材ということができよう。

### 三、入門期における古典教材の検討（高校の場合）

高校の古典教材には当初「入門教材」に続いて基本的な古典を並置するのが普通である。高校の改訂された「指導要領」による昭和48年度古典1乙（検定済）の10冊の教科書を選び、教材の内容とその在り方について調査検討することにした。この調査の対象作品を設定する際に次の三点を考慮した。

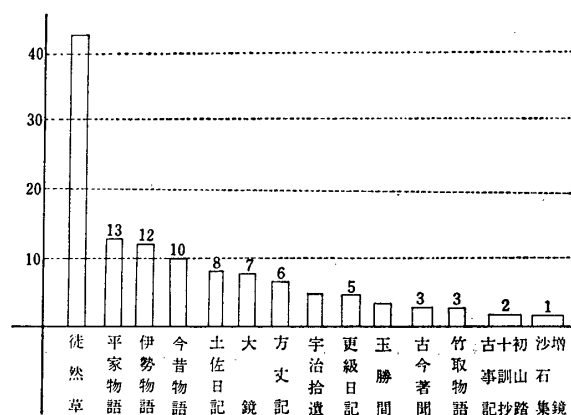
1. 古典I甲の基本的作品として、万葉、源氏、枕草子、徒然草、浮世草子、俳諧があげていること。
2. 従来古典乙Iの段階で特に1年でとりあげられるものを主にして考えると、次の10作品が指定することができる。……基礎的作品の仮設
3. 従って乙I後半の、源氏物語、万葉、枕草子、古今、新古今、俳諧などは一応調査対象から除外した。また、2の基礎的作品の外でも「入門教材」として採択されているものについては取りあげることとした。

調査項目は次の4点である。

1. どんな作品が、何編くらいの文章が採択されているか、(作品の頻度数)  
最多の徒然草ではどんな文章が教材となっているか、43編の文章の段
2. 古典入門期の單元にはどんな作品、文章があるか、(入門作品と教材)
3. どんな作品の文章が多くとりあげられているか(文章の頻度数)
4. 新教材のとり上げ方はどうか

## 調査の結果

### 1. 文章の教科書頻出数（数字～編集10社より）



徒然草は各教科書に頻出され、その段数は43に及んでいる。最も多いのは序段の「つれづれなるままに……」が全部に掲載されている外、次の通りである。

8冊…(1)	137	段花は盛りに
4冊…(3)	52	仁和寺にある法師, 141 悲田院
	150	能につかんとする
3冊…(4)	73	世に語り伝ふること
	75	つれづれわぶる
	142	心なしと見ゆる
	215	平宣時朝臣老のち
2冊…(5)	12	19 53 60 74
1冊…(28)	11	14 15 25 26 31 32 38 47
	49	50 51 59 68 71 89 106 109
	117	152 167 170 187 188 189 226 234
	236	

徒然草は古典1の教材としては最も適当なもので、その採用された文章は44の段文に及び、2冊以上に掲載されているものは16の段文であり、いずれも有名な教材価値の定まっているものである。しかし過半数の28の段文は1冊だけの採択は注目してよいし、この数字は編集者が新教材の発掘に注意しているといつてよい。

### 2. 「古典入門」編の作品頻度数と教材

#### ○ 作品頻度数

宇治拾遺物語	5	平家物語	1
古今著聞集	3	更級日記	1
徒然草	2	玉勝間	1
今昔物語	2	初山踏	1
(枕草子)	2	増鏡	1
十訓抄	2		

#### ○ 教材(文章)

宇治拾遺	ちごのそらね(5)	綾の千金(2)
	絵仏師良秀(2)	応天門・鼻藏人

- 古今著聞 義家衣川で貞任と連歌  
 偷盗, 北叟が馬 (各1)  
 徒然草 亀山殿の水車, 丹波に出雲といふ  
 (各1)  
 今昔物語 信濃守藤原陳忠御坂に… (5)  
 良岑宗貞の出家 (1)  
 (枕草子) 五月ばかりに(3) 木の花は(1)  
 十訓抄 大江山, 安養の尼の小袖 (各2)

宇治拾遺の「ちごのそらね」と今昔物語の「信濃守藤原陳忠御坂に……」の文章が、入門教材として5冊に採用されているのは注目してよい。いずれも説話物語で、文章に長短の差こそあれ、一読して容易に理解ができ、子ども、大人を問わず「欲の深さ」をユーモラスに描き出しており、コントを読み、寸劇を見る心地がし、古典に魅了される面白さを提供している。説話はこの点、入門教材としては適当であるが、だいたい固定されており、新教材発掘の努力がなされていないのは残念である。お伽草子のように嘗って庶民の間に愛読された「文庫文」型の草子などは補助読本や教科書の末尾に採択されて、説話への、古典への興味の扉を開く工夫があつてもよいと思う。

### 3. 古典教材(文章)の頻度数

どんな文章が古典教材として多くとりあげられているか、3冊以上に採択されたものを挙げれば

数	古典教材(文章)	作品	数	古典教材(文章)	作品
10	つれづれなる…(序段)	徒然	4	悲田院堯蓮上人(141)	徒然
8	花は盛りに(137)	〃		帰京	土佐
	祇園精舎	平家		物語への没入	更級
	東下り 都鳥	伊勢		あづま路の果て	〃
6	行く川の	方丈	3	つれづれわぶる(75)	徒然
	筒井筒	伊勢		世に語り伝ふること(73)	〃
	かぐや姫の昇天	竹取		平宣時朝臣(215)	〃
5	倭建命	古事記	心なしと見ゆる(142)	〃	
	木曾の最後	平家	小督	平家	
	信濃守藤原陳忠…	今昔	宇治川の先陣	〃	
	馬のはなむけ	土佐	小野の雪	伊勢	
	花山院の御出家	大鏡	うひかうぶり	〃	
4	競射	〃	五月ばかり(入門)	枕草子	
	ちごのそらね(入門)	宇治	月の桂川	土佐	
	もと光る竹	竹取	道長の剛胆	大鏡	
	仁和寺にある法師(52)	徒然	養和の飢饉	方丈	
	能につかんとする(150)	〃	大蛇たいじ	古事記	

### 4. 新教材のとりあげ方について

価値が高く精選された時代の代表的な古典は、一方において評価指導法も固定された新鮮味がなくなり、生徒に親しみがたいものとなりがちである。従って学習効果をあげるためには、広い範囲にわたり新教材を採りあげる必要があると思う。その一つの試みとして古典Iで最も多い作品「徒然草」の43の教材を分類しその中で1回だけ採択されたものを調査してみると。

項目	1回採択(数字は段)	2回以上
兼好の最大関心事 一道念道及び道の人	(5) 59. 109. 167 187. 188	(3) 51. 92. 150
仏教, 無常観 仏 道を修して得る所	(5) 25. 49. 68 93. 189	(5) 60. 73. 74. 75. 137
道教, 老荘の人生 観 人生批評	(2) 11. 38	
処世観 対人関係	(9) 15. 26. 31. 32. 47. 71. 117. 170. 234	(4) 12. 52. 141. 142
自然・人事におけ る審美眼		(1) 19
軽妙なる滑稽描写 ユーモリスト兼好	(4) 50. 89. 106. 152	(1) 53
有職故実の懐古趣 味	(3) 14. 226. 236	(1) 215
計	(28)	(15)

採択の教材の約1/3は1回(1冊)掲載のものであった。勿論この中にも有名な段の文章もあるが、竹取物語なら「昇天」伊勢物語なら「東下り」「筒井筒」土佐日記なら「旅立ち」というような教材として固定された価値をもつものは、この作品では比較的少ないようである。この表の項目設定や文章の分類は主観的であるが、処世観特に対人関係の文章を多くとり上げているのはよいが、説話的なユーモアに富む文章は多くあってもよい。修道や中世の無常観の文章や老荘の人生観のものは大体予想通りである。

### あとがき

古典教材は現代文とちがい教材の分類も配列も、ほぼ決定しているので、その指導も先人の解釈や研究も進んでいて比較的容易である。そしてこれらの教材の調査に当っては以上の観点に立って作品・教材の採択頻度数からその使用傾向を考え、新教材の発掘の可能性をさぐりながら、教材の在り方を検討しようとしたが、不十分な結果の発表になった。中学・高校ではい

ずれも古典教育を以前より重視する方向を示した改訂指導要領の趣旨であるが、授業時間数や使用教材のきびしい分析検討などまだ問題が残っている。また入門教材として採られている古歌（百人一首など）についても、長さ31文字で内容のまとまっているはいるが、古語になれ親しむ——言語抵抗を早く排除するためには、内容のおもしろい説話ものや江戸時代の擬古文（随筆などで短いもの）が利用されるべきと思う。

古典教材の取り扱い、その指導実践と生徒の評価については、十分の時間がなかったので、次年の研究の成果をまって報告したい。

(注) 古典教材の検討にあたり使用した教科書は次の11社のものである。

東京書籍 教育出版 旺文社 明治書院  
尚学図書 中央図書 三省堂 光村図書  
筑摩書房 角川書店 実教